

## 巻頭言

本研究所の前身である金沢大学がん研究所は、1967年に設立以来、がん転移に関わるタンパク分解酵素の発見、がんの転移・浸潤に密接に関与している種々の生理活性物質の機能解明、分子標的薬の耐性機構の解明などの成果を挙げてきています。

これらの成果を踏まえて、「がん幹細胞研究プログラム」「がん微小環境研究プログラム」「がん分子標的探索プログラム」「がん分子標的医療開発プログラム」の4つのプログラムからなる体制へと2010年度改組いたしました。さらに、老朽化していた基礎部門の研究棟を角間キャンパスに2009年度末に新築移転したことを契機に、学内ならびに学外の研究グループとの共同研究を従来以上に推進するために、共同研究資源ならびに共同利用設備として、ヒトがん組織バンク・マウス発がん組織バンク・ヒトがん細胞株バンク・前臨床実験施設・臨床治験施設を拡充・整備いたしました。以上の取り組みが評価され、「がんの転移・薬剤耐性に関する先導的共同研究拠点」として2010年7月全国共同利用・共同研究拠点に認定され、2011年度より拠点としての活動を開始いたしました。さらに、この認定を契機に、研究所全体としての使命を一層明確にするために、研究所の名称を2011年度「がん進展制御研究所」へと変更いたしました。

2011年度、がんの「転移」・「薬剤耐性」の分野における全国共同利用・共同研究拠点として、本研究所が保有しているヒトがん組織バンクやマウス発がん組織バンク等を活用した共同利用・共同研究を推進することを目指し、共同研究計画（特定4件、一般10件）を広く全国に公募いたしました。この領域の研究が盛んであることを反映して、特定4件、一般15件の応募があり、いずれも甲乙つけがたい素晴らしい研究計画でしたが、研究所に設置した学内外の研究者からなる共同研究専門委員会ならびに共同研究運営協議会の厳正な審査の結果、特定4件、一般12件を採択し、直ちに活発な共同研究を実施いたしました。

これらの共同研究計画による成果を含めた、本研究所の「がんの転移・薬剤耐性に関する先導的共同研究拠点」としての2011年度の活動状況を、本報告書からご理解いただければ幸いに存じます。

金沢大学がん進展制御研究所長 向田直史